

大学の世界展開力強化事業（平成24年度選定）事後評価結果

大 学 名	京都大学
整理番号	I - 4
事 業 名	「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">S	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に実現された。
(コメント) <p> 本事業は、大規模災害や温暖化等の地球規模課題への対策が必要との観点から、京都大学の6部局とAUN(ASEAN University Network)に加盟する相手大学26校がコンソーシアムを形成し、多彩な交流プログラムの実施によって地球規模課題の解決に貢献し、国境を越えた地域と共鳴し相互効果を生み出す実行型の国際的人材育成を目的に実施された事業である。 </p> <p> 事業展開における質の保証を伴う魅力的な大学間交流の枠組み形成として、人間の安全保障の開発背景にある問題意識と基本概念を学際的視点から学ぶ機会を提供し、AUNとの連携に基づき、ASEAN諸国の主要大学と協働教育を行っている。また、京都大学では本事業が初のダブル・ディグリープログラムの実施となり、学内全体としてのダブル・ディグリー制度に関するガイドラインの整備までに至る大きな影響を与えながら、着実に成果を挙げている点は高く評価できる。引き続き、ダブル・ディグリーと事業計画に示す2つの異なる分野で学位取得が可能なダブルメジャー型ダブル・ディグリーなど、多彩なプログラムをASEAN諸国の主要大学をはじめとする国内外の大学と協働し、安定した交流規模の維持と発展的な事業の継続に期待する。このほかにも、国内外で積極的にシンポジウム等が開催されており、事業活動の周知や情報共有など、我が国の大学教育におけるグローバル展開力の強化についても先導的な役割を果たしたものと評価できる。 </p> <p> 一方で、派遣・受入学生数が目標を下回った結果について、その要因や経緯を検証し、今後の事業展開に活かしていくことが望まれる。 </p> <p> 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き本事業の発展的継続と京都大学の国際教育連携が我が国の発展を牽引する取組となっていくことを強く期待する。 </p>	